

22. 盲学校での囲碁指導

グループ名 盲学校囲碁指導ボランティア
代表者 木谷正道

1 活動の目的

盲学校囲碁の普及を通じて、視覚障がい者の活動分野を広げる。

2015年から始まった平塚盲学校での囲碁指導を定着・拡充し、全国の盲学校に広げる。

視覚障がい者は囲碁への適性が高いことが分かってきた（空間認識能力と集中力）。将来、囲碁インストラクターが、鍼、灸、マッサージに次ぐ第四の職業になるよう、夢を持って取り組む。

2 活動概要

(1) 平塚盲学校への囲碁指導

平成27年10月に、木谷と柿島光晴氏（全盲の棋士）が、平塚盲学校文化祭で初めて囲碁入門講座を行った。吉光駿君という小学校五年生が講習を受け、7分間でルールを覚えた。

盲学校では通常の知識のほかに点字や白杖の訓練が必要であり、授業で碁を教えるのは不可能であった。学校側のアドバイスで、放課後に寄宿舎で教えることができるようになった。

翌11月から、近隣ボランティアによる囲碁指導を開始し、最初の年は12人が週に一度、囲碁を教えた。この一年（平成28年10月～29年9月）は週に2回の指導に、18名のボランティアが延べ227回参加した。

このうち、2名分（延べ45回）について、本助成から交通費を支払った（別添明細）。

平塚での取り組みをベースに、各地域の盲学校に視覚障害者用碁盤（アイゴ）を寄贈したほか、音訳CD教材を制作し、全国67盲学校に寄贈するなど、盲学校への囲碁普及を行った。

本年2月からは、中里氏ら平塚盲学校ボランティアが中心となり、東京大田区で高次脳機能障害者と家族に囲碁講座を開催している。来年1月7日には、「高次脳機能障害と囲碁&心の唄」というイベントが大田区文化の森で開催される。

言葉を発することのできない全身性障害児も大田の例会で囲碁を覚え、アイトラッキング（視線入力装置）で会話（文字入力）と囲碁の訓練を始めた。

こうした中で、今年は国際大会が数回開催されるなど、「障害者と囲碁」が静かなブームになった。

(2) 視覚障害者用碁盤教材の制作と全盲学校への配布（平成28年11月25日）

当初は、凹凸のある紙教材を考えたが、検討の結果、音声が最適と分かり、CD教材二種類（①「ヒカルの碁入門」 ②「13路盤で最速上達」）を制作した（デジター機器対応）。

全国67盲学校に、「はじめて出会う碁の世界」（2007年、東大制作）と一緒に寄贈した。

碁盤と教材を送っただけでは碁指導は進まない。その後に各盲学校を訪問すると、碁盤もCDも活用されていないケースがかなりあった。

近隣の大学碁部、日本棋院各支部などの応援が必要であり、ねばりよく各地で働きかけを行っていききたい



(3) 各地の盲学校訪問と囲碁指導

①甲信盲学校訪問

期 間：平成28年10月25日～27日

訪問先：長野県松本盲学校（10月25日） 長野県長野盲学校（10月25日）

日本棋院長野県本部（10月26日） 山梨県立盲学校（10月27日）

東京都立八王子盲学校（10月27日）など

参加者：木谷正道、中里利男、柿島光晴

内 容：各盲学校に視覚障害者用碁盤アイゴを寄贈。校長、副校長らに囲碁普及をお願いした。

日本棋院長野県本部には、盲学校への囲碁指導と甲信越盲学校囲碁大会への協力を依頼。

②関西・中国・四国盲学校訪問

期 間：平成29年1月24日～27日

訪問先：大阪府立大阪南視覚支援学校（1月24日） 同大阪北視覚支援学校（1月24日）

兵庫県立視覚特別支援学校（1月24日） 神戸市立盲学校（1月25日）

岡山県立盲学校（1月25日） 広島県立広島中央特別支援学校（1月26日）

香川県立香川盲学校（1月27日）

参加者：中里利男、柿島光晴

内 容：各盲学校に視覚障害者用碁盤アイゴを寄贈し、校長、副校長らに囲碁普及をお願いした。

③甲信盲学校訪問

期 間：平成29年7月6日～7月8日

訪問先：山梨県立盲学校（7月6日） 長野県松本盲学校（7月6日） 長野県庁（7月7日）

長野県長野盲学校（7月7日） 長野市役所（7月7日）

参加者：木谷正道、中里利男、柿島光晴

内 容：昨年に引き続き、盲学校への囲碁普及をお願いした。

県庁では、中島副知事に、盲学校への囲碁普及や「囲碁の県長野」の推進をお願いした。

④東海・関西・中国地方訪問

期 間：平成29年7月25日～8月1日

訪問先：静岡市役所（7月25日） 奈良県立盲学校（7月26日） 奈良囲碁協会（7月26日）

山口県立下関南総合支援学校（8月1日） 広島県立広島中央特別支援学校（8月1日）

参加者：木谷正道、柿島光晴

内 容：山口県立下関南総合支援学校を初訪問し、アイゴを寄贈したほか、各盲学校、囲碁関係者に、盲学校囲碁の普及をお願いした。

3 決算報告書（明細資料添付）

収 入	大同生命厚生事業団助成金	100,000円
支 出		
	平塚盲学校ボランティア交通費（2名分、延べ45回）	25,000円
	視覚障害者用教材の制作と送付（音訳CD二種類）	20,000円
	各地盲学校への訪問と指導の旅費（4回）	96,973円
	合 計	141,973円